



## 2025年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2024年8月2日

上場会社名 ネクストウェア株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 4814 URL https://www.nextware.co.jp  
 代表者(役職名) 代表取締役社長 (氏名) 豊田 崇克  
 問合せ先責任者(役職名) 取締役執行役員 管理本部長 (氏名) 渡邊 博和 (TEL) 06-6281-9866  
 配当支払開始予定日 —  
 決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 2025年3月期第1四半期の連結業績(2024年4月1日~2024年6月30日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年3月期第1四半期	691	34.7	△83	—	△83	—	△88	—
2024年3月期第1四半期	513	△11.5	△111	—	△108	—	△104	—

(注) 包括利益 2025年3月期第1四半期 △88百万円(—%) 2024年3月期第1四半期 △104百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2025年3月期第1四半期	△6.98	—
2024年3月期第1四半期	△8.20	—

## (2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率
	百万円	百万円	百万円	百万円	%
2025年3月期第1四半期	1,582	1,239	1,239	1,328	78.4
2024年3月期	1,687	1,328	1,328	—	78.7

(参考) 自己資本 2025年3月期第1四半期 1,239百万円 2024年3月期 1,328百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2025年3月期	—	—	—	—	—
2025年3月期(予想)	—	0.00	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 2025年3月期の連結業績予想(2024年4月1日~2025年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	3,000	6.4	30	—	30	—	10	—	0.79

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 無  
新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2025年3月期1Q	13,015,222株	2024年3月期	13,015,222株
2025年3月期1Q	308,719株	2024年3月期	308,719株
2025年3月期1Q	12,706,503株	2024年3月期1Q	12,706,503株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は : 無  
監査法人によるレビュー

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	5
第1四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	6
第1四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(セグメント情報等)	7
(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	7

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間における我が国経済は、持ち直しに足踏みがみられますが、緩やかに回復しています。先行きにつきましては、緩やかな回復が続くことが期待されますが、欧米の高金利水準の継続に伴う影響や中国経済の先行き懸念など、海外景気の下振れが国内景気を下押しするリスクとなっております。

当社グループが所属する情報サービス産業におきましては、競争上の優位性を確立するDX（デジタルトランスフォーメーション）関連の需要が堅調に継続しており、特に生成AIを活用したAX（AIトランスフォーメーション）への投資が急速に拡大すると見込まれます。また、クラウドサービスの拡大により情報セキュリティの重要性も高まっております。

当社グループは、ソリューション事業におきましては、今般のデジタル社会に対応すべくDX・AX事業へ積極的な投資を継続し、従来のシステムエンジニアリングサービスから、クラウド・サブスクリプションサービスへビジネスモデルの転換を図り、ストック型キャッシュフロー経営の強化を進めております。次の成長分野であるクラウドサービス事業を拡大するための次世代ネットワーク人材の採用・育成などの社内投資を行ったことから、連結では四半期純損失となりました。一方、株式会社システムシンクは、前期に品質管理システムの生成AI化事業が海外案件を含め好調に推移したことから、親会社への剰余金の配当を実施し、当社単体では四半期純利益が黒字化しております。

また、エンターテインメント事業においては、飛躍的に向上した株式会社OSK日本歌劇団の知名度が新規顧客の獲得及び収益増に繋がるよう、作品のエンターテインメント力と完成度の追求し、大幅な増収となりました。

当第1四半期連結累計期間における売上高は691百万円（前年同四半期比34.7%増）、営業損失は83百万円（前年同四半期は111百万円の損失）、経常損失は83百万円（前年同四半期は108百万円の損失）、親会社株主に帰属する四半期純損失は88百万円（前年同四半期は104百万円の損失）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

#### ① ソリューション事業

デジタルソリューション・AI（人工知能）を中心とするDX・AI事業においては、次世代サービスとなるクラウド型ネットワークサービスの構築に不可欠となる安定した閉域網ネットワーク基盤や、ネットワーク上で本人同意の監査証跡を担保し得る電子署名サービス、顔認証ソリューションを用いた多要素生体認証、海外を含む遠隔地同士の端末間での双方向インタラクティブなコミュニケーションを安全に行える次世代デバイス間通信技術など、高度なセキュリティ技術を組み合わせたクラウドネットワーク型のサービス実装検討を様々な分野にて進めております。特に、前期に推進した顔認証技術を活用した従来の入退室管理に加え、不審者検知や施設の人流分析分野に関しては新しい事業モデルを社会に提供し得る幾つかの実装プロジェクトを進めており、PoC（概念実証）フェーズから社会実装のフェーズへと確実に進展しております。

品質管理システムの生成AI化事業においては、AIを駆使してプラント機器のセンサー及び周辺機器などの異常や故障を未然に予知する当社提供のシステムにつき、前期に続き開発に取り組んだ結果、複数の大手企業において実装計画のご用命を頂き、納品体制の更なる強化を進めております。

防災システムにおいては、近年多発している梅雨時期における局地的な豪雨・大雨や線状降水帯による河川の洪水、土砂崩れ等の異常気象による災害に対し、迅速、的確かつ正確に対応するため、防災監視系システム、道路監視系システムの整備に注力いたしました。また、気象庁から発表される気象各種情報や降雨情報、河川水位情報を基に、地域住民の避難行動に繋がる情報をいち早く自治体に知らせる機能や、船舶の安全な航行や落水、海上での安否見守りを担保する船舶監視システムの整備を進めました。

これらの結果、当第1四半期連結累計期間におけるソリューション事業の売上高は555百万円（前年同四半期比15.9%増）となり、セグメント損失は80百万円（前年同四半期は88百万円の損失）となりました。

#### ② エンターテインメント事業

連結子会社の株式会社OSK日本歌劇団は、4月に松竹座にてトップスターの退団公演を上演しました。本公演は、2004年の松竹座「春のおどり」以来、過去最高の来場者数となりました。また、5月には金沢公演を上演しました。東京ブギウギなどの笠置シズ子メドレーも採用し、全席完売となりました。

OSK Revue Café in Brooklyn Parlorでは、トップスターのメモリアルステージを上演しました。同劇場の大型LEDパネルの特徴を活かし、過去の舞台映像と当時のショーを同時に繰り広げる新たな演出を手掛けることができました。

これらの結果、当第1四半期連結累計期間におけるエンターテインメント事業の売上高は135百万円（前年同四半

期比302.0%増)、セグメント損失は3百万円(前年同四半期は23百万円の損失)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末の総資産は1,582百万円となり、前連結会計年度末に比べて105百万円減少しました。これは主として、流動資産その他が36百万円、仕掛品が15百万円、現金及び預金が15百万円、有形固定資産が13百万円それぞれ増加した一方で、受取手形、売掛金及び契約資産が181百万円減少したことによります。

負債合計は342百万円となり、前連結会計年度末に比べて16百万円減少しました。これは主として、流動負債その他が73百万円増加した一方で、支払手形及び買掛金が71百万円、未払法人税等が17百万円それぞれ減少したことによります。

純資産合計は1,239百万円となり、前連結会計年度末に比べて88百万円減少しました。これは利益剰余金が88百万円減少したことによります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年5月15日に公表した連結業績予想から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2024年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	595,543	610,956
受取手形、売掛金及び契約資産	472,822	291,686
商品	36,274	36,856
仕掛品	7,749	23,388
その他	82,824	119,238
流動資産合計	1,195,215	1,082,126
固定資産		
有形固定資産	107,991	121,501
無形固定資産	50,989	52,659
投資その他の資産	333,653	326,133
固定資産合計	492,634	500,294
資産合計	1,687,849	1,582,421
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	147,648	76,422
1年内返済予定の長期借入金	6,600	6,600
未払法人税等	22,308	4,966
その他の引当金	-	187
その他	169,146	242,503
流動負債合計	345,703	330,680
固定負債		
長期借入金	1,950	300
退職給付に係る負債	4,881	4,881
資産除去債務	5,512	5,513
その他	1,213	1,167
固定負債合計	13,557	11,861
負債合計	359,260	342,541
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,310,965	1,310,965
資本剰余金	229,198	229,198
利益剰余金	△106,949	△195,658
自己株式	△104,625	△104,625
株主資本合計	1,328,588	1,239,879
純資産合計	1,328,588	1,239,879
負債純資産合計	1,687,849	1,582,421

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)
売上高	513,129	691,010
売上原価	406,302	554,906
売上総利益	106,826	136,103
販売費及び一般管理費	218,301	219,400
営業損失(△)	△111,474	△83,297
営業外収益		
受取利息	56	54
受取配当金	240	240
業務受託収入	4,350	300
貸倒引当金戻入益	580	290
その他	180	90
営業外収益合計	5,407	975
営業外費用		
支払利息	279	5
為替差損	1,763	1,520
その他	154	149
営業外費用合計	2,196	1,676
経常損失(△)	△108,264	△83,998
特別損失		
事務所改装費用	-	8,458
特別損失合計	-	8,458
税金等調整前四半期純損失(△)	△108,264	△92,456
法人税、住民税及び事業税	1,388	298
法人税等調整額	△5,488	△4,046
法人税等合計	△4,100	△3,747
四半期純損失(△)	△104,164	△88,709
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△104,164	△88,709

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)
四半期純損失(△)	△104,164	△88,709
四半期包括利益	△104,164	△88,709
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△104,164	△88,709



(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額	四半期連結損益 計算書計上額 (注)
	ソリューション 事業	エンターテイン メント事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	479,528	33,600	513,129	—	513,129
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	6,338	6,338	△6,338	—
計	479,528	39,938	519,467	△6,338	513,129
セグメント損失(△)	△88,336	△23,138	△111,474	—	△111,474

(注) セグメント損失(△)の合計額は四半期連結損益計算書の営業損失と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第1四半期連結累計期間(自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	ソリューション 事業	エンターテイン メント事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	555,938	135,071	691,010	—	691,010
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	6,336	6,336	△6,336	—
計	555,938	141,407	697,346	△6,336	691,010
セグメント損失(△)	△80,253	△3,186	△83,439	142	△83,297

(注) 1. セグメント損失(△)の調整額はセグメント間取引消去であります。

2. セグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)
減価償却費	8,500千円	11,425千円
のれんの償却額	918千円	— 千円